

中野区立図書館報 中野区の木の「しいの木」そして、図書館を表す「biblio」
それらをあわせてタイトルを「シイビブリア」としました

シイビブリア

VOL.
44

偉人たちのシークレットレター

書く・届く 楽しみ

中野区立上高田図書館

桜の木に囲まれた図書館



seebiblia

中野区立図書館報
シイビブリア

中野区立図書館報
シイビブリア vol.44

令和2年7月31日発行(隔月1回末日発行)
発行人 廣瀬幸子

〒164-0001 東京都中野区中野二丁目9番7号
発行 中野区立中央図書館シイビブリア編集部

ISSN 2187-9893

seebiblia



中野区立図書館

<https://library.city.tokyo-nakano.lg.jp/>

指定管理者

ヴィアックス・紀伊國屋書店 共同事業体

seebiblia



偉人たちの シークレットレター

手紙は、はるか昔から自分の言葉、思いを相手に伝える方法として用いられてきた。家族への近況報告、友人へ向けた気軽なものから、恋人へのあまい思いを綴った恋文…季節の挨拶や冠婚葬祭など、手紙の万能性は、その歴史をひも解くだけでも多岐にわたる。メールやSNSが主流の現代においても、手紙は私たちの日常生活に根付いている。本特集では、歴史に登場する様々な偉人たちのエピソードとともに、彼ら、彼女らの手を通して綴られた「シークレットレター」をご紹介します。

文豪・太宰治



『人間失格』『走れメロス』などの名著で知られる太宰治(本名・津島修治)は、1909(明治42)年、青森県北津軽郡金木村(現在の五所川原市)に生まれた。県会議員や衆議院議員を多く輩出する大地主の六男として、何不自由なく暮らした太宰の経歴は、異端と言わざるを得ない。

太宰治の作家への道は、中学生から始まった。兄・圭治が東京から持ち帰った文学雑誌に書かれた、井伏鱒二の『幽閉』(のちの『山椒魚』)や、芥川龍之介の『侏儒の言葉』に出会い、彼は衝撃を受ける。先人たちの作品に触発された太宰は、中学卒業までの四年間、兄弟や友人らとともに同人誌『星座』『青んぼ』を発刊し、会誌に自らの作品を発表するなど、意欲的に創作活動に励んだ。

そして高校生になった彼を待ち受けていたのが、敬愛してやまない作家・芥川龍之介の自殺だった。1927(昭和2)年7月24日、「将来に対する唯ぼんやりした不安」を動機に服毒自殺した芥川の死は、後の太宰自身、そして作風にも多大な影響を及ぼすこととなる。

ある菊池寛が、雑誌『文藝春秋1934年4月号』にて、芥川賞と直木賞の募集を開始する。芥川に傾倒していた太宰ももちろん参加。自信作の『道化の華』を芥川賞へ応募したが、結果は落選であった。選考者である川端康成は、太宰の応募作ではなく、太宰自身の私生活に問題があることを指摘しており、この選評に太宰は不満を爆発させた。「選考者ならばあくまで作品の質で判断すべきだ」と、不満と反論を綴った長文の手紙を川端へ送っている。

翌年、『晩年』が砂子屋書房から刊行された折、太宰は初刊行本を川端へ寄贈した。それに対する川端の礼状の返事に、太宰は後に『泣訴状』と呼ばれる書簡を送っている。内容は、「次回の芥川賞はぜひ私に与えてほしい」旨を認めたものだったが、第二回芥川賞は二・二六事件の影響で該当者なしで終わった。太宰の落胆は計り知れない。



▲1946(昭和21)年、銀座のBAR「ルパン」にて。太宰治。(林忠彦・撮影)



書く

最近、手紙を書いただろうか。仕事と関わりなく、ダイレクトメールでもなく、年賀状などの形式的でもない郵便物をする機会があっただろうか。メールやSNSでのやりとりが多くなりがちだが、たまには趣向を変え、ペンを持つのもきつと楽しい。

✍️ 手紙のある生活 (物語)

✉️ 『水曜日の手紙』 (森沢明夫／著、KADOKAWA、2018年、所蔵：中央・鷺宮・東中野)



実在した企画「水曜日郵便局」をモチーフにした物語。2020年6月時点では残念ながら閉局しているが、読むと手紙を書きたい気持ちになつてくる。水曜日の出来事を手紙に書き送ると、同じように手紙を出した誰かの水曜日の手紙が届く。物語の登場人物たちは、その手紙を通して、悩んだり励まされたりしながら前向きに生きようとしている。ほっこりと心癒される物語だ。

✍️ 何を書くのかな

文章を書くのは苦手だと思つたら、大胆に筆の一言で、もしくは、絵で表現するのも一案だ。その他にも、消しゴムなどでハンコをつくってみたり、写真を印刷してみたり、旅先のポストカードを送ってみたり……。まずは自分がワクワクするものを探そう。

🗑️ 消印

✉️ 『風景スタンプワンダーランド』 (吉沢保／著、日本郵趣出版、2012年、所蔵：上高田)



届いた手紙がどこの郵便局から運ばれたか、考えてみたことがあるだろうか。全国で一万以上の郵便局には、「風景スタンプ」「風景印」と呼ばれる、地元の名所や特産品を圖案化した消印が設置されている。ポストに投函しただけでは押されることのないもので知名度は低いが、80年以上の歴史がある消印だ。自分で持ち帰るために集めるもよし、旅の思い出に風景印を押して送るのもよし、自由に楽しもう。

✉️ 『東京しるしのある風景』 (松田青子／著、河出書房新社、2017年、所蔵：中央)

作家・翻訳家の著者が、東京23区の風景印を集めた様子をエッセイのように書いた一冊。著者は中野区にも訪れている。区内には、全部で4つの印があり、本書では3つの印が紹介されている。読んでみると都内を散歩した気持ちにもなれる。

✉️ 『気持ち伝わるゆるかわ虹色筆文字』 (たみのもみ／著、日東書院本社、2016年、所蔵：南台)



丸みのあるゆるかわかわいい虹色の筆文字サンプルを参考に、自分のクセを生かした文字を書くことができるようになる。

✉️ 『季節を楽しむ絵手紙』 (朝日新聞出版／編著、朝日新聞出版、2015年、所蔵：江古田)

二十四節季ごとの図案が載っている。絵の具を中心に、ちぎり絵などの手法での描き方も紹介されている。

郵便の話



道を歩いていると目に入る、郵便ポストや配達員の姿。世界で最も古いサービス業の一つともいえる、人が人のために何かを運ぶというサービス。この使命は同じでも、世界のどこかでは、想像のつかないような郵便局やポストがある。「郵便II赤」だけではない世界の郵便事情をみてみよう。

✉️ 郵便

✉️ 『ポストオフィスマニア』 (森井ユカ／著、講談社、2006年、所蔵：本町・野方)

水玉模様の郵便集配車をイメージできるだろうか。フィンランドでは、1990年代に大きな改革をした結果、郵便局のブランドのイメージを切り替えることになった。白とブルー、そしてオレンジを使った水玉模様が、郵便のデザインだ。本書では、このような誰かに話したくなる世界の郵便を見ることが出来る。

届く

手紙の中で重要なことは、その中身だけではない。ポストを開けてまず目に入る封筒にも、差出人の心遣いがあるかもしれない。季節感のある遊び心が描かれていたり、特別な思いを封じ込めていたり、街を思い起こす印がついていたりすることがある。ポストをのぞくことも楽しくなるだろう。

✂️ 切手

✉️ 『楽しさ届けるはじめての絵封筒』 (内尾夕子／著、実業之日本社、2011年、所蔵：中央)



切手は必ずしも封筒の左上に真っ直ぐに貼るもの、というわけではない。表面に必要な料金を貼るなど、最低限のルールとマナーを守れば、ある程度、自由に貼ることができる。そして切手には、さまざまな色柄がある。この特徴を生かして封筒に絵を描こう。季節感や個性あふれる手紙ができあがる。たとえば本書では、扇柄の切手を、浴衣の帯に見立てて貼る絵封筒が紹介されている。ポストを開けてこのような封筒を見たら、思わず笑みがこぼれてしまふ。

✉️ ポスト

✉️ 『世界の郵便ポスト』 (酒井正雄／著、講談社エディトリアル、2015年、所蔵：中央)



著者が30年近くにわたって撮影した世界のポストの写真をもとめた一冊。黄色のポストや海中にあるポスト、四角かったり丸かったり、各国によってさまざまな特徴がある。ポストはいつでも街中にあるのが当たり前。そう思いがちだが、世界に目を向ければ、天災や紛争によりポストが壊滅してしまふということもある。ポストがある風景は平和の証なのだ。

切手でお勉強

切手は手紙を届けるために貼るだけでなく、集める楽しみというもある。切手には国の歴史や文化などが反映されることも多い。古今東西に発行された切手から、教養を深めるのはいかがだろうか。

✉️ 『切手で知ろうシリーズ』

彩流社より出版されている『切手が伝える〇〇〇』というタイトルのシリーズだ。「化学」「仏像」「第二次世界大戦」など、2020年6月時点で、10のテーマで出版されている。シリーズの一部は、中央・本町・野方・南台・鷺宮・上高田にて所蔵している。



✉️ 特別な演出

✉️ 『シーリングワックスの本 増補版』 (平田美咲／著、誠文堂新光社、2014年、所蔵：上高田)

特別な時には、シーリングワックススタンプ(封蝋印)を押してみたいかがある。一気に高級感あふれる手紙になる。ちよっとした使い方のコツを覚えれば、簡単にステキな装飾を施すことができる。



桜の木に囲まれた

図書館



上高田図書館マスコット
シマリスのまるちゃん

上高田図書館

上高田図書館は、区の北東寄り、新宿区との区境にあります。区内8館のなかでも一番若い図書館です。とはいえ昭和も終幕に近い、63年の6月に開館、創館32年目を迎えます。

繁華街からは少し離れた、人通りはそれほど多くない閑静な住宅地にあります。この静けさに導かれ、毎日のように顔を見せてくださる近隣の方をはじめ、同じ建物に同居している上高田児童館に遊びにこられる親子連れ、隣接の新宿区民の方などが、安らぎと憩いを求めて訪れます。桜の木立に囲まれている上高田図書館は、熱心なファンに、ひっそりと、されど力強い応援をいただいています。



開放的な高い屋根のした、ゆっくりと本が選べます

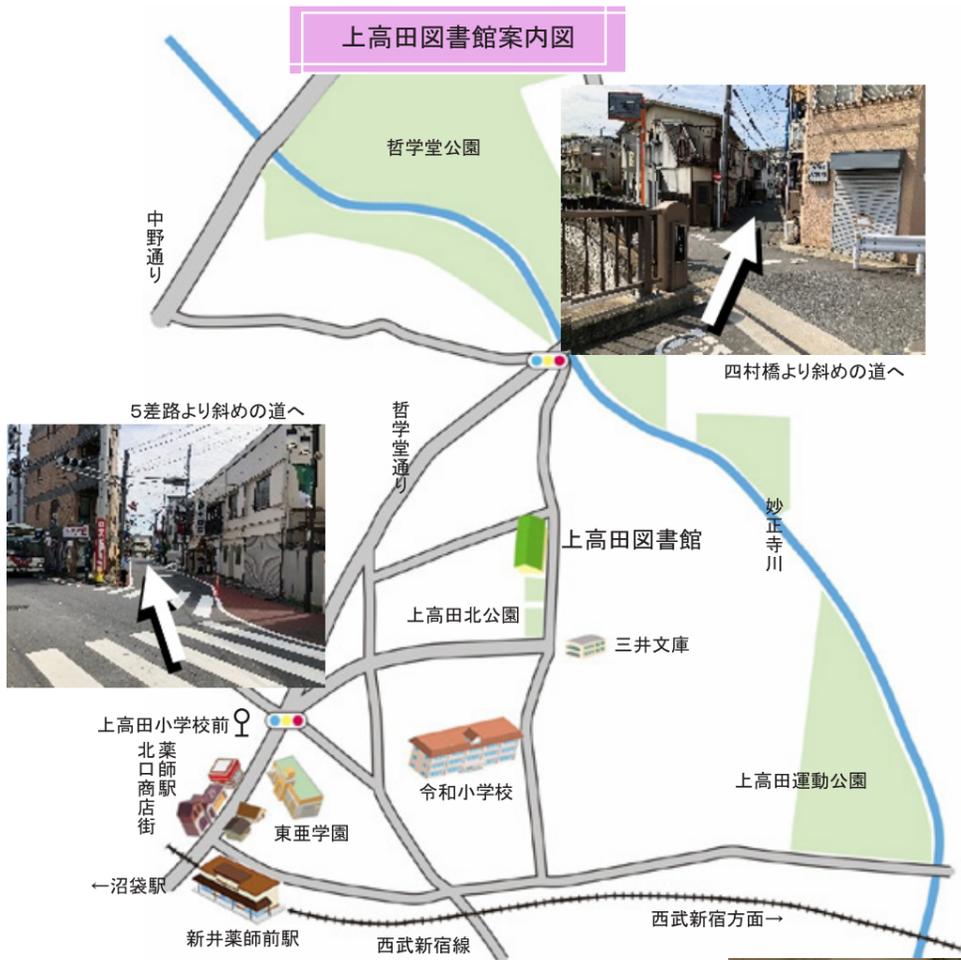
開放的な一般書架

2階に上がって突き当たりを左に進みますと、いきなり解放された空間が目飛び込んできます。一般書架に一步足を踏み入れると高い天井が右から斜めに立ち上がり、中央付近まで迫り上がる、開放的な雰囲気になります。左側は、全面が窓になっていて、明るい光が差し込み、上高田図書館力

秘密基地的な児童室

階段を下りて突き当り、ガラガラと少し重い扉を引くと緑の絨毯が敷き詰められた隠れ家のようなスペースが広がっています。絨毯には上高田のマスコットにもな

っている可愛らしいシマリスの「まる」が描かれています。北側は一面、広く明るい窓になっていて、木造りの長いベンチがほぼ壁の長さいっぱい設置されています。子どもたちが本を探して、部屋の中をくまなく巡っているあいだ、付き添いの大人や兄弟がこのベンチから、



子どもたちにシールを貼ってもらった台紙貼り椅子の壁



昨年実施した量の奥の絵本作家展示コーナー

ラーであるピンク色の書架がゆったりと配置されています。

目を引く展示スペース

書架毎に、2、3段を抜いてスペースをつくり、表紙を見せて本を展示しています。思いつくままに次々と本を手にとり取ってもらうことで、本との不意の出会いを演出しています。

子育て世代に優しい図書館

ベビーカーを押して児童館を訪れる方が、立ち寄れるように、入り口のすぐそばに育児棚を作りました。この棚は、生活資金の指南から、子供の名付け、離乳食の作り方、塾や教育関係の本まで子育てライフプランをなぞった本を、ジャンルに囚われず集めています。若者から壮年、そして



人気の育児コーナー

親子三代で立ち寄られる様子も見受けられます。

遊びがテーマの棚があります！

当館の「個性ある図書館」展示のテーマが「趣味・スポーツ・生涯学習」であることから、スポーツ関係資料などが充実しています。周囲に哲学堂公園、上高田運動公園などがあり、休日には、運動や散歩帰りに立ち寄られる方も多くいます。

手にはテニスラケットを、また野球のユニフォーム姿で出向かれた方々などが、色々な種目や大会を取り扱った本や雑誌、また、展示パンフレットで紹介している本のリストを手に入れます。

「あつちにも面白そうな本あるよー」「もうそろそろお昼だよ。お腹すいてきたよ」などと自宅さながらにくつろいでいる様子が見られます。このベンチの背もたれや足元に台紙を貼り、子どもたちが本を借りる毎に、シールを貼ってもらう企画を毎年実施しています。反対側の壁には、児童館につながる扉があります。子どもたちが、ちょっと気分転換にと、児童館のホールへ出かけていきます。

お待ちかね 出張図書館

毎週水曜日には、ワゴンに、絵本や子育てに役立つ本や雑誌を満載し、親子で歌って踊れるCDなどもチョイ

上高田図書館へようこそ

忙しい毎日の一息つきたい方、新しい本との出会いを求めている方、公園やグラウンドでちよと汗をかいてひと休みしたい方も、ぜひ一度、上高田図書館にお越しください。飽きることなく書架を巡っていただけるよう、選りすぐりの本を用意して、お待ちしております。

※この記事は上高田図書館が作成しました



スポーツや趣味の本が、固まっている棚です！



ダジャレを言ったのは
だれじゃ？の巻



「個性ある図書館」展示



生活に密着したテーマをもとに、各館で「個性ある(特色ある)図書」の展示を行っています。
より展示に親んでいただけるよう、各回の展示ごとに
パスファインダー(情報を探するための手引書)をご用意しています。

	個性づくり 各館年間テーマ	8月29日～10月29日 第55回展示内容
中央	ワークライフ支援	目指せグッジョブ! 脱!ぐちゃぐちゃ
本町	文化・芸能・芸術	音楽をよむ
野方	まちづくり・環境・エコロジー	食と環境問題
南台	生活・福祉・介護	外国語にチャレンジ
鷺宮	子育て・教育	孫育て
東中野	法務情報	債権法改正
江古田	健康・医療	メンタルヘルス ～心を解きほぐす～
上高田	趣味・スポーツ・生涯学習	マニアック・スポーツ

中央図書館の展示



企画展示『日本郵便ことはじめ』

「郵便」をテーマとして、関連資料を展示します
 展示期間：令和2年8月1日(土)～9月24日(木)
 展示場所：中野区立中央図書館 地下1階
 ・正面玄関前ガラスケース
 ・大型図書コーナー

次号予告

特集

- ・ 食・運動・芸術の秋
- ・ 図書館紹介～中央～

vol.45 2020年9月末日 発行予定

※予告の内容は変更になる場合があります

編集後記

- ①偉人たちの手紙を通して、地元の家族や友人に久しぶりに会いたくなりました!画面越しの面会はやっぱり物足りないなあ... (S)
- ②私にとって切手といえば80円のキジバトで、84円のウメに馴染むのには時間がかかりそうです。(Yu)
- ③今年もまた暑い夏がやってきますね。我が家の麦茶消費量が日に日に激しさを増しています。(Ya.M)

図書館のイベント告知は、新型コロナウイルスの感染拡大状況により流動的なため、今号では掲載を見送らせていただきます。
最新の情報はポスターやチラシ、ホームページなどをご確認ください。

※本誌の掲載内容・お知らせ情報は記事作成当時のものです。

ブックカバーとして
ご利用いただけます

単行本 ↓

文庫本 ↓

文庫本 ↓

単行本 ↓

ブックカバーとして
ご利用いただけます

単行本 →

← 単行本

文庫本 →

← 文庫本

中野区立中央図書館
中野二丁目9番7号
TEL 03-5340-5070



中野区立鷺宮図書館
鷺宮三丁目22番5号
TEL 03-3337-1044

中野区立本町図書館
本町二丁目13番2号
TEL 03-3373-1666

中野区立東中野図書館
東中野一丁目35番5号
TEL 03-3366-9581

中野区立野方図書館
野方三丁目19番5号
TEL 03-3389-0214

中野区立江古田図書館
江古田二丁目1番11号
TEL 03-3319-9301

中野区立南台図書館
南台三丁目26番18号
TEL 03-3380-2661

中野区立上高田図書館
上高田五丁目30番15号
TEL 03-3319-5411

中野区立図書館



文庫本 →

← 文庫本

単行本 →

← 単行本

ブックカバーとして
ご利用いただけます

単行本 ↑

文庫本 ↑

文庫本 ↑

単行本 ↑

ブックカバーとして
ご利用いただけます